

R&D 団地進出で新展開

高速シートシャッター、上下水道遠方監視装置などのメーカー、小松電機産業（島根県八束郡八雲村東岩坂180、社長小松昭夫氏、0852・54・1160）は、松江市などが造成した研究開発型企業団地「松江湖南テクノパーク」に進出する。新工場、研究所を建設し、主力製品の製造、研究部門を移転することも、新たに「人間自然科学研究所」を設立し、人間と自然と科学のかかわりあいのなかから将来にわたる事業展開も狙っている。そこで、小松社長に今後の事業展開などについて聞いた。

—松江湖南テクノパークに
ての工場（延べ六千平方メートル）を建設する。約十八億円を投入、九月二十九日に島根県、松九五五年一月から工事に着手し、

小松電機産業社長 小松 昭夫氏に聞く



ローカルからグローバルに…と小松昭夫氏

十二月には操業を開始したいと考えている
—「人間自然科学研究所」も新設されるそうですが。

人間自然科学研を設立

さらに一村一志運動推進

「十一月には操業を開始したいと考えている」
—「人間自然科学研究所」も新設されるそうですが。

「設置もこの考えに基づいたもの『やぐも水神』、環境電気機器で、ローカルからの展開を通じて自主自立の精神を養い、高い理想、高い志を持った人物の発掘と、その志に共鳴し、これを補佐する人材の育成を図り、これによってユートピア社会の出現を促すことを狙っている。これを、一村一志運動」と名付

「研究所は当社の主力製品である高速シートシャッター」門自然と科学のかかわりあいの中から、未来のあるべき姿を創造するためのビジネスのテーマと、その商材を研究し、その実践を通じて人物の発掘と人材の育成を目指すのが狙いだ」
—一村一志運動との関連を考えている

「私は以前から新しい時代を創造するビジネスをローカルからスタートさせ、グローバルに展開していきたいと考えてきた。『人間自然科学研究所』の

で増やし、売り上げも現在より十億円増の年間四十五億円を目指している。そして将来は本社機能も移したいと思っている。私にはもっと大きな夢もあるが、まずはテクノパークの展開に全力を尽くしていきたい」

企業のあるべき姿を追求へ

記者の目

工場や倉庫の出入り口は鉄製のシャッターが常識とされる状況にあって、高速のシートシャッターを開発、急成長したのが小松電機産業。現在は上下水道遠方監視装置との二本柱を中心に、略奪に伸びている。小松社長は人間とは本来どういふものか、企業のあるべき姿は「という理念を一貫して追求している。松江湖南テクノパークへの進出は、小松社長の理念を実現する第一歩ともなるわけだ。」
(山陰・柳川英夫支局長)